

熊本市障がい者福祉センター希望荘
開館40周年記念誌

希望荘40年のあゆみ

KIBOUSOU 40th ANNIVERSARY 1980-2020



令和3年3月

- 表紙 -

希望荘文化祭作品展2017 最優秀賞作品

タイトル 「夜のサイクリング」

製作者 曲梶 智恵美

希望荘の基本理念

すべての障がいのある人が、かけがえのない個人として尊重され、
地域社会において自分らしい生活を送ることができるよう支援します。



昭和55年発足当時の希望荘

館旗



シンボルマークデザイン 今福 祥太

目次

■ 希望荘の基本理念 ・ 館旗

■ 挨拶

希望荘開館 40 周年にあたって

熊本市長 大 西 一 史 …… 4

希望荘開館 40 周年によせて

社会福祉法人 熊本市社会福祉事業団 理事長 永 目 工 嗣 …… 5

■ 寄稿

いつまでも「心通う場」に

希望荘運営委員会 委員長 川 本 浩 右 …… 6

熊本市障がい者福祉センター希望荘開館 40 周年によせて

希望荘運営委員会 副委員長

熊本市身体障害者福祉協会連合会 会長 多 門 文 雄 …… 7

これまでも、これからも

希望荘運営委員会委員

熊本市手をつなぐ育成会 会長 西 恵 美 …… 9

希望荘 40 年と精神障がい者の社会参加

希望荘運営委員会委員

熊本市心の障害者家族会むつみ会 会長 宮 田 喜代志 …… 10

■ 功労者表彰

希望荘開館 40 周年記念功労者表彰 …… 12

歴代功労者表彰（開館 10～30 周年） …… 14

■ 私たちの希望荘

ご利用者、関係団体の皆さまの声 …… 16

NPO法人 ともにある会	理事長	松 村 忠 彦
熊本難病・疾病団体協議会	前会長	中 山 泰 男
日本リウマチ友の会 熊本支部	支部長	本 田 千寿子
日本てんかん協会(波の会)熊本県支部	代 表	丸 山 和 美
九州重複障がい教育研究会 事務局		井 上 礼 治
NPO法人 オハイエくまもと	理事長	入 部 祥 子

熊本市手話サークル わかぎ昼の部	代 表	吉 田 幸 子
熊本点訳会 陽だまりの会	代 表	篠 田 洋
熊本市視覚障がい者カラオケ愛好会 三光会	代 表	西 田 洋 一
希望荘パソコン講座	講 師	高 沢 龍 司
希望荘料理講座	講 師	上 妻 逸 子
希望荘ご利用者		松 本 桂 介
		中 山 敬 子
		松 本 二美子
		小 形 和 義
		(ペンネーム) L i S A
	ボランティア	長 野 明 美

■ 40周年記念インタビュー

希望荘シンボルマーク制作者 今福 祥太さん	2 8
-----------------------	-----

■ 希望荘 40年のあゆみ

希望荘 40年のあゆみ	2 9
障がいに関する制度年表	4 1
寄贈・寄付一覧	4 2

■ 地域活動支援センター

地域活動支援センターのあゆみ	4 4
ご利用者インタビュー	4 6

■ 資料編

希望荘概要	5 0
外観・館内・福祉車両写真	5 1
施設利用者推移	5 4
希望荘歴代館長・歴代運営委員	5 6
令和3年度事業計画	5 8

■ 編集後記



希望荘開館 40 周年にあたって

熊本市長 大 西 一 史

熊本市障がい者福祉センター希望荘が開館 40 周年を迎えるにあたり、ご挨拶を申し上げます。

まずもって、開館 40 周年を迎え、これまで多大なるご支援とご協力を賜りました希望荘運営委員会の委員の皆様をはじめ、関係者の皆様方に深く感謝を申し上げます。

希望荘は、障がい者の自立と社会参加のための福祉センターとして昭和 55 年に開館し、平成 5 年には社会の要請や利用者のニーズを踏まえ、デイサービスセンターを併設するなど、福祉サービスの拠点としての充実を図ってまいりました。

平成 28 年の熊本地震では施設に甚大な被害を受け、以降 3 年間閉館することになりましたが、多くの皆様からのご協力を賜り、平成 31 年 4 月に運営を再開いたしました。

現在、新型コロナウイルス感染症の影響により、一時的な休館やイベントの中止を余儀なくされるなど、利用者の皆様にはご不便をおかけしておりますが、引き続き、各種勉強会や作品展の展示など、皆様の「ふれあいの場」、「憩いの場」として多くの方々にご利用いただけるよう努めてまいりたいと考えております。

また、現在、本市では、令和 3 年度から 3 年間で期間とする「第 6 期熊本市障がい福祉計画」並びに「第 2 期熊本市障がい児福祉計画」を策定中であり、障がい福祉サービスの提供体制の強化及び支援の充実に向け、様々な事業を展開していくこととしております。

本市としましては、今後もすべての人が障がいの有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向け、全力で取り組んでまいりますので、皆様方にはなお一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、関係者の方々のますますのご健勝とご活躍を心より祈念申し上げ、記念誌の発刊にあたってのご挨拶といたします。



希望荘開館 40 周年によせて

社会福祉法人 熊本市社会福祉事業団
理事長 永 目 工 嗣

熊本市障がい者福祉センター希望荘は、昭和 55 年(1980)6 月に開館し、令和 2 年度に 40 周年を迎えました。また、平成 18 年(2006)4 月、熊本市社会福祉協議会から引き継ぎ、当法人が指定管理者となって 15 年目を迎えております。

ちょうど平成 18 年度は、「障害者自立支援法」が施行され、身体・知的・精神など障がいのあるすべての方々が、自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう運営を始めた年でもあります。このため、デイサービスセンターはその役割・名称を改め、「地域活動支援センター」に変更し、熊本市の地域生活支援サービスの拠点としてスタートを切りました。

平成 28 年(2016)4 月、二度にわたり震度 7 クラスの大地震が襲った「熊本地震」では、建物に甚大な被害を受け、その後 3 年間は、代替施設として隣接するイオン熊本中央店 2 階をお借りするとともに、ご利用者の入浴につきましても当法人のデイサービス等を利用しながら、事業を継続いたしました。

平成 31 年(2019)4 月に復旧を終え、希望荘は全面的に再開いたしますが、翌令和 2 年春からの新型コロナの感染が拡大し、万全の対策を講じながらも、リスクレベルに応じてやむなく休館した時期もありました。このため、令和 2 年度の開館 40 周年記念事業についても運営委員会にお諮りし、令和 3 年度に先送りいたしました。

このように、さまざまな困難や変革の波を乗り越えながら、昭和 55 年度の開館当初約 1 万 6 千人だったご利用者は、熊本地震前の平成 27 年度には 3 万 7 千人に達しております。また、震災直後には、一時約 6 千人まで減少したご利用者は、復旧した令和元年度には 2 万 6 千人にまで回復いたしました。

これもひとえに、熊本市のご指導、ご利用者をはじめ運営委員会の皆様並びに関係団体のご支援、ご協力の賜物と心から感謝申し上げます。

当法人が、最も上位に位置付けている職員の行動規範が「すべてはご利用者のためにかから発想し、行動する」であります。新型コロナ禍であるからこそ、ICT を活用した情報の受発信やリモートでの講座・学習など、障がいのある方々との新たなコミュニケーション手段にも積極的に取り組んでまいります。

今後とも、関係団体の皆様と連携を深め、ご利用者の声を大切にしながら、利用しやすく、積極的に学び、体験する場、地域生活支援サービスの拠点としての役割を果たせるよう努めてまいりますので、さらなるご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



いつまでも「心通う場」に

希望荘運営委員会

委員長 川本 浩 右

熊本市障がい者福祉センター「希望荘」が開館して40周年を迎えましたことを、心からお祝い申し上げます。障がい者のための「憩い」と「学び」と「触れ合い」の場として、様々な事業が展開されてきた40年ですが、鮮明に記憶に残る出来事が次々に思い出されて、喜びもひとしおの感があります。

40年前の開館に至るまでの準備段階においては、熊本市身体障害者福祉協会連合会をはじめ関係者の皆様を中心となった、強く熱く燃えるような心意気と行動力の結集があったと聞いており、このことを決して忘れてはならないと思っています。

私は、20年前の平成12年(2000)4月に、当時の「希望荘」の運営・管理者だった熊本市社会福祉協議会の幹部の方から運営委員への就任を依頼されたのが「希望荘」との関わりの始まりです。当時、私は熊本市日日新聞社の論説委員をしており、会社の承諾を得て委員をお引き受けしました。

以来、20年にわたり「希望荘」の運営に微力を尽くしてきたつもりですが、それよりも自分自身が学ばせてもらったというのが現実でした。と申しますのも、運営委員になる7年ほど前に、私は熊本市から「身体障害者手帳」を交付されていました。「心臓機能障害」のため薬が手放せない毎日です。しかし、障がい者の方々について、個々の日常生活、医療・リハビリ関係、組織的な活動など、ほとんど知らないことばかりでした。

運営委員になって、障がい者団体の代表の方々と協議を重ねることによって、少しずつ理解を深めることができ、成人式、夏まつり、文化祭作品展などの諸行事で、お互いの心の触れ合いができました。特に成人式では、寝台車や車いすの新成人が、家族みんなに笑顔で祝福されている姿を見る時、思わず熱いものがこみ上げてきたことは、一度や二度ではありませんでした。また、毎年開催されていた運営委員による一泊二日の県外視察研修も勉強になりました。新たに完成した施設に圧倒され、夜の会食時には委員諸氏から様々な意見や生の声が述べられ、その一部は、記事に取り上げたこともありました。

「希望荘」はその後、熊本市社会福祉事業団に運営・管理が引き継がれましたが、地域における障がい者の総合福祉センターとして、施設・事業内容ともに充実発展させていく役割は揺らぐものではありません。関係者の一人として、それをしっかりと心に刻み、一層、努力を重ねていきたいと思っています。



熊本市障がい者福祉センター希望荘 開館 40 周年によせて

希望荘運営委員会 副委員長
熊本市身体障害者福祉協会連合会 会長
多門 文雄

希望荘開館 40 周年おめでとうございます。心からお慶び申し上げます。

40 年かぁ、長いですね…、思い返すと色々なことがありました。

44 年前の昭和 51 年から熊本市身体障害者福祉協会連合会の広報部長として、皆さん故人になられましたが、鎌田大造会長、塩山正事務局長たちと一緒に、自民党市議会議員の大石文夫先生をはじめとする各党に亘る本会顧問議員の先生方や星子敏雄市長に身体障害者福祉センター建設を度々要望・陳情して建設が実現しました。

希望荘がオープンした昭和 55 年 6 月、私はまだ 35 歳でした。同じ時に熊本市身体障害者福祉協会連合会会長になったので、初代希望荘松川勇館長から「知られていないこの無料の貸館を多くの心身障がい者の皆さんに利用していただくにはどうしたらいいでしょうか」と相談されました。松川館長と職員の松村亘さんと私の 3 人で知恵をしぼりました。無料で参加できる主催事業を何にするか、講師代を参加者で負担する自主事業は何がいいか。そして協力してくださる講師を探さなければなりません。手探りの状態からの出発でした。

最初に企画したのが 2 ヶ月後に迫った 8 月 11 日の第 1 回「火の国まつり協賛・希望荘夏まつり」です。RKK 熊本放送に出向いてラジオの生中継に来ていただくようお願いをしました。午後 4 時開会、レストカー組合の出店や、おてもやん総踊り、カラオケ大会のすごい盛り上がりの雰囲気、ぼってん荒川氏の司会「とびだせ 160 出前のど自慢」の番組で放送してもらいました。その後は、演芸大会、くじ引き大会で夜 8 時半まで賑わい、閉会。熊本県民、熊本市民にラジオ番組で福祉センター希望荘がオープンした宣伝ができました。

第 2 回は、歌謡ショーと演芸大会を計画して、熊本市火の国まつり事務局に出向き、二の丸広場のステージで夕方から出演する水前寺清子さんに、先に希望荘へ来ていただいて歌っていただくようお願いしました。第 3 回は桜田淳子さん、第 4 回は柏原芳恵さん、第 5 回は石川秀美さんに来ていただき、ヒット曲を 3 曲歌っていただきました。第 6 回は三原順子さん（現在は三原じゅん子参議院議員）に来ていただいてのトークショーでした。若い男性マネージャーが「(希望荘の)音響設備が良くないので歌えません。歌うならば 1 曲 10 万円です」と言われ、それで「お話し」だけになったのです。

第 7 回は「生の歌が聴きたい、話だけならば来てもらわなくていい」という視覚障がい者の意向により、歌手にはお願いせず「肥後にわか」など色々な出演者による「希望荘夏まつり」になりました。

IT革命2000年の後に主催事業のパソコン教室ができた時、直ぐに受講して10余年、少しは生活に活かすことができるようになったのでとても良かったです。

ある時、主催事業に英語教室ができたので初級と思って申し込んでみましたが、とても難しい内容の英会話でした。そこで、希望荘運営委員会において「英語教室は外国人講師と英語仲間4~5人の趣味の会ではないですか、主催ではなく有料の自主事業にするべきです」と意見を述べました。中学校英語教諭に同席してもらい、その内容を調べてもらうことになり「とても難しいです」との結果に、英語教室は無くなりました。つまりは、受講者と講師と希望荘職員の馴れ合いの英語教室でした。

希望荘ができるまでは、会議や行事を計画するたびに、少しでも使用料の安い、人数に合った会議室を探すところから始めなければなりませんでしたが、今は気楽に人数に応じた部屋を予約できて、本当にありがたいです。感謝しています。今では地域活動支援センターも併設され、障がい者デイサービスが充実されています。

2016年4月の熊本地震後の3年間、そして今は令和2年度から新型コロナウイルス感染症の流行のため、度々希望荘は利用休止になり、思うように利用できないのが残念です。

未熟な私をご指導ご愛顧いただきました関係者の皆様に、衷心より感謝いたしますとともに厚くお礼を申し上げます。





これまでも、これからも

希望荘運営委員会委員

熊本市手をつなぐ育成会 会長

西 恵美

私たち育成会は、他の団体とは少し違って、障がいのある本人が活動を積極的に企画運営することがむずかしいので、支援者に協力をお願いして本人活動を行ったり、親の会活動として研修や会議を行ったりしています。

顧みますと、私たち育成会が熊本市精神薄弱者育成会として広報誌を創刊したのが昭和54年7月。その広報誌に希望荘が初めて登場したのは、昭和55年3月発行の第3号で、会員アンケート結果が載っていました。そこには、開館が予定されている熊本市の福祉センター(現希望荘)の利用方法についての記述があり、①気軽に相談したり話し合いのできる場にしてほしい②成人した精薄者(原文のまま)が気兼ねなく行けるところにしてほしい③宿泊訓練、緊急一時保護ができると嬉しい—などが寄せられていました。③は施設の趣旨とは少し違う意見でしたが、①②の期待には40年たった今、しっかり応えていただいているのではないのでしょうか。

特に②についてです。熊本市育成会には『つなごう会』という本人活動があります。昭和35年に熊本市の中学校特殊学級(当時)卒業生のために『若葉若竹青年教室』として始めました。昭和41年に熊本市育成会が引き継いでからこれまで60年、調理実習やキャンプ、旅行などの余暇活動を通して、就労先での人間関係や仕事についての悩みなどを相談したり、社会生活に必要なルールなどを学ぶ場として大きな役割を果たしてきました(一昨年12月に、長年の取り組みが認められ、令和元年度の『障害者の生涯学習支援活動』に係る文部科学大臣表彰を受賞)。

希望荘ができてからは、調理室や茶室、音楽室などを活動の拠点として使わせていただいております。希望荘なしではここまで続けてこれませんでした。

また、親の会としても希望荘は欠かせない存在です。私が希望荘に足を運ぶようになったのは平成17年からですが、会議で部屋を貸していただくのはもちろん、希望荘の夏まつりや作品展など、利用者団体として、実行委員の一員として、企画やカレー作りに参加しました。大変なこともありましたが、他の団体のみなさんともワイワイ、ガヤガヤ、楽しく過ごさせていただいたことはいい思い出です。

建物も40年たって私と同じくあちこち修繕が必要になってきていますが、希望(荘)の灯が消えることなくこれからも続くように祈っています。



希望荘 40 年と精神障がい者の社会参加

希望荘運営委員会委員

熊本市心の障害者家族会むつみ会 会長

宮田 喜代志

「きぼうそう」なんて素敵な響きだったでしょう！

40 年前のある日、近所で民生委員をやっておられた方が、「今度『希望荘』をつくるから」と知らせてくれました。「場所は交通局のとなり、長野製糸のここよ…」、まだダイエーでもイオンでもなかったのです。

その当時、私はまだ学生でしたが、ちょうど農村福祉の勉強を始めたばかりのころ。『障害者の十年』は知ってはいましたが、自らが障がい者の運動に関わることになろうとは思っていませんでした。

この 40 年を振り返ってみますと、精神障がい者にとっては目まぐるしく制度が変わっていった年月でした。ライシャワー事件以来、「開放」へ向かうはずだった日本の精神医療・保健・福祉が、制度全体「閉じ込める」方向に動いてしまいました。やがて、精神障がい「監護」から「保護」へ、「保護」から「地域移行」へ、そして「社会参加」へ移り、いつしか私たちも私たちの「家族」も、希望荘へ通えるようになりました。

一昨年から、新型コロナウイルスへの感染予防対策という状況の中、私たちはささやかな期待を持っています。目に見えないウイルスによって「閉じ込められる」という苦しみを、だれもが体験せざるを得なくなったからです。人は「閉じ込められる」ことが最も苦痛なのです。自由に人生経験を積み、自由に考え、自由に感じるができるということは、どれほど豊かなことでしょうか。当事者も、家族も、支援者も、「障がい」一つにがんじがらめになる。豊かになるためにはその束縛を解かねばなりません、一朝一夕でその束縛の縄は解くことができませんでした。社会がこうした経験から、障がいがあるということの大変さを理解し、共感を持ってくれるのではないかと思うからです。

私たちは、お互いに手を取り合うことで、時にはくじけそうになりながらも、心の輪をつないでまいりました。この 40 年という月日を、その絆を、改めて喜び合いたいと思います。



功劳者表彰

希望荘開館40周年記念功労者表彰

個人の部

氏名	功績
多門文雄	希望荘運営委員を34年の永きにわたり務め、希望荘夏まつり実行委員としても希望荘の事業運営に多大な貢献
寺本克己	希望荘運営委員を継続して31年の永きにわたり務め、希望荘夏まつり実行委員としても希望荘の事業運営に多大な貢献
川村隼秋	希望荘運営委員を継続して30年の永きにわたり務め、希望荘夏まつり実行委員としても希望荘の事業運営に多大な貢献
内藤満夫	希望荘運営委員を継続して26年の永きにわたり務め、希望荘夏まつり実行委員としても希望荘の事業運営に多大な貢献
川本浩右	希望荘運営委員を継続して21年の永きにわたり務め、希望荘夏まつり実行委員としても希望荘の事業運営に多大な貢献
村上芳継	希望荘運営委員を継続して10年の永きにわたり務め、希望荘夏まつり実行委員としても希望荘の事業運営に多大な貢献
松本正隆	希望荘運営委員を継続して4年にわたり務め、希望荘夏まつり実行委員としても希望荘の事業運営に多大な貢献
西田洋一	希望荘ふれあい総合相談の相談員として永きにわたり活動し、以来多くの視覚に障害のある方の悩み解決に貢献
卯野木キミエ	希望荘ふれあい総合相談の相談員として永きにわたり活動し、以来多くの視覚に障害のある方の悩み解決に貢献
山田孝	希望荘夏まつり実行委員を永きにわたり務め、希望荘の事業運営に多大な貢献
児玉啓子	民生委員児童委員として永きにわたり希望荘と地域の懸け橋となり、希望荘の事業への人的支援や関係構築に多大な貢献

個人の部

氏名	功績
松 永 朗	希望荘ボランティア育成講座手話初級講座の講師を永きにわたり務め、手話の普及と聴覚障がいへの理解促進を担い、ボランティア育成に貢献
福 馬 朝 子	希望荘手話ダンス講座の講師を永きにわたり務め、聴覚障がい者への理解促進と啓発を担い、積極的に希望荘の事業へ参加し、発展に貢献
高 沢 龍 司	希望荘パソコン講座の講師を継続して22年の永きにわたり務め、多くの講座生の生きがづくり、仲間づくり、社会参加促進に貢献
上 妻 逸 子	希望荘料理講座の講師を継続して21年の永きにわたり務め、多くの講座生の生きがづくり、仲間づくり、社会参加促進に貢献
倍 澄 香	希望荘絵手紙講座の講師を継続して18年の永きにわたり務め、多くの講座生の生きがづくり、仲間づくり、社会参加促進に貢献

団体の部

団体名 代表者	功績
熊本点訳会 陽だまりの会 代表 篠田 洋	点訳奉仕者として視覚に障がい者のある方への点訳資料作成に積極的に取り組み、希望荘の事業運営に多大な貢献
慶誠高等学校 ペンフレンドクラブ 顧問 内田 扶美子	ボランティアの一環として、使用済み切手の収集活動により購入した車いす等の物品を、永きにわたり希望荘へ寄贈し、福祉の促進に多大な貢献
日本舞踊西崎流 西崎緑恭社中 代表 西崎 緑恭	希望荘夏まつりでの「おてもやん総踊り」の指導ならびに出演者として35年の永きにわたり継続して参加し、盛会に多大な貢献
日本舞踊西崎流 恭祠会 代表 西崎 緑祠	希望荘夏まつりでの「おてもやん総踊り」の指導ならびに「演芸大会」の出演者として22年の永きにわたり継続して参加し、盛会に多大な貢献

歴代功勞者表彰

10周年記念功勞者表彰

個人	佐藤良富	鎌田大造	多門文雄
団体	布の絵本 ひまわり文庫	熊本中央ライオンズクラブ	熊本県レストカー組合
	白川校区交通安全協会		大江校区交通安全協会
	熊本市身体障害者福祉協会連合会	社会福祉法人 熊本市精神薄弱者育成会 (熊本市手をつなぐ育成会)	

20周年記念功勞者表彰

個人	寺本克己	川上政男	内藤満夫
	林忠	橋口桂介	石渕貞次郎
	川村隼秋	松岡進吾	
団体	手話ボランティア 水曜グループ	手話ボランティア さざんかグループ	熊本手話ダンスクラブ しらゆり
	サークル仲間	日本現代和装研究会	わがままチンパンジー
	希望荘ふれあい総合相談 相談員	慶誠高等学校	九州学院高等学校

30周年記念功勞者表彰

個人	竹坂和子	川本浩右	田中文昭
	甲斐則幸	出田千代美	山崎美智子
	杵屋六花登	高濱あや子	川端菊代
団体	慶誠高等学校		必由館高等学校 和太鼓部



私たちの希望荘

ご利用者、関係団体の皆さまの声



祝 熊本市障がい者福祉センター希望荘開館 40 周年

NPO法人 ともにある会

理事長 松村 忠彦

熊本市障がい者福祉センター希望荘が 40 周年を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。

希望荘開館の昭和 55 年(1980)の翌年は、“完全参加と平等”をテーマにした国際障害者年であり、ノーマライゼーションの理念が浸透し始める時期でした。

希望荘では、平成元年、在宅障がい者の福祉ニーズをつかむ『ふれあい訪問』を行い、相談所発足準備の会議が始まり、その検討会参加が私達のグループと希望荘の出会いでした。平成 3 年(1991)9 月 1 日、「希望荘ふれあい総合相談所」として開設を迎え、それから 30 年間、相談継続の一翼を担わせていただき、メンバー一同感謝しております。

お陰様で、平成 14 年(2002)2 月には、相談業務開始 10 周年記念と「ともにある会」の NPO 法人活動認可の披露をかねて「ふれあい交流会」を、また平成 15 年から 3 年間「ホームヘルパー養成講座」も開催できました。

この 40 年の間には、措置制度から支援費制度、自立支援法、総合支援法へと障害福祉制度が激変し、また熊本地震、そして新型コロナ禍と、思わぬ天変地異の試練に遭遇していますが、その都度、希望荘の設置者、指定管理者には適切な対応をしていただきました。特に印象的なことは、地震後の屋外テントや、イオン店内一室での「ふれあい総合相談」の継続です。希望荘の皆さんの支援があってやりとげられました。

「ともにある会」は、初心に帰り“完全参加と平等”を求めて、希望荘ふれあい総合相談があらゆる人々に親しまれ、利用していただけるよう精一杯、頑張っていくつもりです。これからもよろしく願いいたします。



ケース検討会の様子(開設当時)



平成 9 年 3 月
相談事例冊子 発行



ホームヘルパー養成講座(平成 15 年～17 年)



平成 4 年 10 月
「希望荘と地域とのふれあい祭」での相談会



平成 28 年 6 月
震災後、玄関前テント内で相談会再開

希望荘開館 40 周年によせて

熊本難病・疾病団体協議会

前会長 中山 泰 男

希望荘開館 40 周年おめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。

さて、熊本県難病団体連絡協議会（現在は「熊本難病・疾病団体協議会」）がデビューしたのは、平成 15 年（2003）10 月 11 日の希望荘 2 階大ホールでした。

当日は、多くの著名な難病専門医師、行政を含む難病者支援に携わっていただいている職員の皆様のご参加を得て、華々しく設立を宣言し、事業を始めることができました。このシーンは今でも、つい昨日のことのようによく覚えています。

全国の都道府県では 40 番目の設立で、熊本県はかなり遅れての登場です。実のところ、県内に散らばる各団体を検索するにも情報は数団体のみで、存在を確かめるだけでも大変な作業。少しずつ参加団体を増やし、設立準備事務局を立ち上げ、約一年間を準備会議に費やしました。時には掴み合いや怒号が飛び交うこともありましたが、望む目標は皆さん同じでしたので、集約するまで時間はかかりませんでした。その会場として、無料で使える会議室を提供してくれる希望荘は、本当にありがたい存在でした。

当事者が当事者を支援するボランティア活動に資金はありません。現在、それぞれの団体が希望荘を利用させていただいていますが、今後も当事者・家族や支援者らの拠点のひとつとして、また、様々な障がいや疾病のある方々と触れ合える場所として、これからの希望荘に、ますます期待をしています。



熊本県難病団体連絡協議会設立総会

大切な交流の場 希望荘

日本リウマチ友の会 熊本支部
支部長 本 田 千寿子

希望荘開館 40 周年おめでとうございます。

私が知っているのは、わずか十数年ですが、その間、私たちの集まりの場は「希望荘で」というのが当たり前でした。役員会議はもちろん、会員さんとの交流の場として、お部屋も福祉バスもこれまで数え切れないほど使わせていただきましたこと、心より感謝申し上げます。

希望荘は、バスや電車、自動車を使う方にも便利な立地で、バリアフリーですから車椅子や杖を使う会員さんも安心して利用できます。しかも無料です。私たちにとってこれ以上ない施設です。熊本地震後しばらく利用できなかつた間、どれだけ心細かつたことでしょう。このまま閉館してしまうのではないかと不安になっていた時、お隣のショッピングモールの一画に「希望荘別館」ができた時のうれしさ！！。利用制限があり、部屋数も少なかつたのですが、食品の買い出しや、手芸の材料を買いに行くことができ便利だと皆さん喜んでおられました。

そして、本館が再開。またゆっくり交流会ができることがとても嬉しかつたです。早速、調理室を予約してみんなで料理をしました。

希望荘は、様々な種類のお部屋があるおかげで、料理やコーラス、ヨガまで多彩な活動ができます。私たちにとって交流会の時間は、痛みや辛さを忘れられる幸せな時間です。今は利用が一部制限されていますが、また、きっといろんなことを楽しめる日々が戻ると信じています。これからも末永くよろしく願いいたします。



医療講演会(2014年)



料理での交流会(2012年)



手芸での交流会(2018年別館にて)



コーラスサークル(2019年)

「希望」をありがとう

日本てんかん協会（波の会）熊本県支部
代表 丸山和美

開館40周年おめでとうございます。いつも大変お世話になっております。

私が希望荘に最初にお世話になったのは、当時2歳の次女がてんかんとわかり、波の会の例会に参加した時だと思います。元気なお母さんが多く、たじたじで、ひたすら皆さんの話を聞いていたと記憶しています。何度か通ううちに、てんかんのある子どもを育ててきたからこそ通じ合えるものがあり、この場所ではホッとしたいのだと思えるようになりました。

時には、音楽室や和室を利用したり、調理室でクリスマスケーキの飾り付けをしたこともありました。懐かしいです。コロナ禍の今では、当然のように集まっていたことが大変貴重なことに思えます。

次女は小さい頃、希望荘の広い窓から外の景色を眺めるのがとても好きでした。今は高校2年生になり、身長も伸びて、当時とは見える景色も変わったかもしれません。

これからも、悩んだり、苦しんだりしている人の「希望」の場所であってください。



それぞれの学びをつなぐ大切な場所

九州重複障がい教育研究会 事務局
井上礼治

九州重複障がい教育研究会は、熊本大学教育学部教授をしておられた進一鷹先生を代表として、障がいのある子どもたちと教材を通して様々な学習を行う「教育相談」を行ってきました。進先生を中心に学生や現役の教職員が大学の教室に集い、数や文字・点字の学習、姿勢の組立ての学習など、子どもの様子に応じて教材を工夫しながら実践を深めました。平成23年に進先生が退官され、教育相談の場は熊本大学から希望荘へ移り、いくつも部屋をお借りして、それまでと同様に、それぞれの子どもたちとの学習を継続的に行うことができました。

平成28年の熊本地震により、しばらくの間、大切な学びの場であった希望荘を離れましたが、利用再開にともない、かかわり合いも再開されました。現在20人ほどの皆さんが月1回のペースでご家族とともに通って来られ、長い人とは20年以上の縁があります。子どもたちと長きにわたってかかわり合い、そこから学んだことは、私たちにとってかけがえない財産となっています。今も保護者の方に「来週土曜は希望荘の日です。ご都合はいかがですか？」と連絡しています。まさに希望荘は「それぞれの学びをつなぐ大切な場所」です。これからもどうぞよろしくお願いいたします。



希望荘開館 40 周年おめでとうございます！

NPO法人 オハイエくまもと
理事長 入部 祥子

オハイエくまもとは、設立から 12 年を迎えました。11 年前、オハイエ音楽隊の練習を、みんなに親しみがあり、交通の便も良い希望荘で始めることができ、感謝しています。この間、オハイエ音楽隊の仲間の音楽性はもちろん、社会性や生活面での素晴らしい成長には驚かされ、ファミリーやボランティアも幸せを感じています。

はじめは、気になる音に耳を押さえて部屋から出て、お母さんのもとに駆け寄っていた聴覚過敏のある人が、好きな音楽には参加し、歌ったり、踊ったりし始めたのです。また、楽譜を読む力があることがわかり、今ではピアノを習い、お母さんと連弾して発表するまでに成長しました。他にも音楽に触れるチャンスがなかった人たちが、いろんな楽器、歌、ダンス、手話を楽しむことができました。我々は、障がいのあるパフォーマーの潜在能力の凄さに改めて驚き、少しでも才能が引き出されるように祈る思いで活動を続けています。

最初は楽器もなく、不要になったメロディオンを頂いたり、借り物で始めました。この希望荘という練習場所を何よりありがたいと思い、希望荘夏まつりやイベントにもお声掛けをいただいて参加でき、楽しく広報もできました。

我々オハイエくまもとが NPO 法人に認められたこと、5 周年記念や 10 周年記念コンサートを開催できたこと、また、くまもと県民文化賞や公德賞、文部科学大臣表彰などの賞を頂いたのも、継続して練習ができた希望荘と、多くの支援者のおかげと思っています。

今回のコロナ禍で残念ながら、現在練習を中断しておりますが、今後ともオハイエくまもとをどうぞよろしく願います。そして、希望荘のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。



希望荘チャレンジフェスタ 2019 オープニング

感謝の気持ちを込めて

熊本市手話サークル わかぎ昼の部

代表 吉田 幸子

熊本市障がい者福祉センター希望荘開館 40 周年、おめでとうございます。

熊本市手話サークルわかぎ昼の部は、毎週水曜日の午前に、熊本聴覚障害者総合福祉センターで、ろう者と健聴者が一緒に手話の勉強をしています。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大にともなう部屋の人数制限により、25 名～30 名程の会員が集まる当会の利用はできなくなり、本当に困りました。そんな時、希望荘の大ホールが 27 名まで利用できると聞き、すぐに申し込みました。遠方から会員が集まりますので、職員の方のアドバイスで、定員を超えた時の為に別の一室も借りることができ、不安が解消しました。本当にありがとうございました。

サークルでは長年、希望荘のバスで阿蘇、天草、芦北、山鹿など多くの場所に連れて行ってもらっています。ろう者と健聴者が、手話を使い楽しい時間を過ごしています。

一昨年の「希望荘チャレンジフェスタ 2019」では初めて「手話劇」を披露する機会をいただきました。みんなの手話への意欲と興味がますます沸いたようです。

この先、希望荘の役割はもっと大きくなると思います。これからもよろしく願いいたします。

希望荘開館 40 周年おめでとうございます

熊本点訳会 陽だまりの会

代表 篠田 洋

希望荘開館 40 周年おめでとうございます。あらためて希望荘開館以来、長年にわたり熊本市の障がい者福祉のため、真摯に尽力されてこられた歴代の館長はじめ、職員の方々へ心より敬意を表します。

近年は、障がい者のために IT の活用や、有効な各種機器の開発・利用に拍車がかかっているとはいえ、やはり障がい者の方々にきめ細やかな行動で寄り添い、手助けできるのは「人」であると思います。そのためにも館長・職員の方々には福祉活動にさらなるご支援をいただき、今後も熊本市福祉活動の拠点として希望荘がさらに存在感を高め、訪れる障がい者にも、関係者各位にも様々なかたちで活用されていくことを祈念いたします。

毎月一度、会合の場として希望荘を活用させていただいている「陽だまりの会」は、少数の方に、わずかな情報をお届けしているだけの小さな点訳ボランティアグループですが、今後少しでも多くの視覚障がい者へ支援の輪を広げられたらと思っております。

希望荘 40 周年に想うこと

熊本市視覚障がい者カラオケ愛好会 三光会

代表 西 田 洋 一

熊本市障がい者福祉センター希望荘開館 40 周年にあたり、衷心よりお祝い申し上げます。開館当時を思い出しますと、私は熊本市視覚障がい者福祉協会の青年部長として活動をする中、希望荘の開館は大いなる期待と名前に示された「希望の拠点」でもありました。

昭和 30 年代半ば、熊本市では既に各障がい者団体が組織され、活動が活発になっていく中、会議室の確保や、活動の拠点となる場所の必要性が強く求められておりました。その実情を熊本市身体障害者福祉協会の顧問であった衆議院議員の野田毅先生に強く要望、陳情を行いました。野田先生は、我々の状況を深く理解され、多大なご尽力によって拠点施設の建設が実現したのです。その施設の名称が「希望荘」だと聞いた時の喜びは、今も記憶に残っております。以来 40 年間、利用者の立場から見た希望荘での活動、行事への参加は、多くの思い出とともに我々の記憶に刻まれております。

印象深い事としましては、毎年 1 回の夏まつりには、多い時には 700～800 人の参加があり、玄関前には屋台が設けられ、出店も並び大盛況でした。ステージでは、毎年、人気芸能人が来館し、大いに盛り上がり、障がい者の枠を超えて皆で夜遅くまで全館いっぱい盆踊りを楽しみました。特に、水前寺清子、石川さゆり、三原順子、柏原芳恵の出演などは深く印象に残っております。

今日の希望荘の発展を思う時、歴代館長をはじめ、関係者の方々の献身的な施設運営と取り組みに敬意と感謝の念を表すものです。

私自身、一昨年前、視覚障がい者のカラオケ愛好会「三光会」を発会し、盛大に第 1 回大会を開催し、今後更に発展的に活動をしたいと意気込んでおりました。その矢先、人類が経験したことのない新型コロナウイルスの感染拡大によって希望荘が休館に追い込まれるという状況は想像もしなかったことです。それまで、当たり前に行っていたことの有難さを痛感するとともに、早くコロナ感染が終息し、普段の状況に戻ることを願うばかりです。

希望荘が一日も早く再開し、熊本市の身体障がい者の活動拠点として更に発展していくことを切に祈ってやみません。

たくさんの出会いに感謝！

希望荘パソコン講座

講師 高 沢 龍 司

熊本市障がい者福祉センター希望荘開館 40 周年おめでとうございます。

この記念すべき日に執筆できますことを大いなる光栄と存じております。これもひとえに、歴代の館長をはじめ職員の皆様、また障がい福祉関係者やボランティアの方々の理念と信念の結集だと思えば、40 周年のこの佳き日を共に迎えられ感無量でございます。

振り返りますと時代の荒波にもまれ、多難な出来事もありました。2016 年 4 月の熊本地震で希望荘は被災し、休館を余儀なくされました。パソコン講座はその年の 12 月に開設されたイオン店内の希望荘別館で再開することができました。場所の狭さ、夏の暑さなど何かと大変でしたが、ご利用者の方々と楽しい時間を取り戻すことができました。

2019 年 4 月には希望荘復旧にともない、「実家のような安心感」と共にパソコン講座を再開することができましたが、今年(2020 年)は、コロナウイルス感染症拡大により東京五輪やパラリンピックが開催延期となったり、緊急事態宣言による外出自粛が求められるなど、前例のない出来事が立て続けに起こっております。

40 年前は、今と違い、コンビニもインターネットや Youtube もありません。この 40 年で熊本の景色や世の中のあり方、人々の価値観は大きく変わりました。パソコンやインターネット、スマートフォンの普及は、大きな環境変化や生活様式の変化であったはずですが、私たちはそれをポジティブなものとして捉え、上手に合わせてきました。だからこそ、この 2020 年の変化もポジティブなものへ変えていけるのではないのでしょうか。今まさに変化と戦っているように、これから先、予測不能で困難な問題が現れた時にも、時勢に柔軟に対応し、備えていくことが大切なのだと感じています。

この節目を迎え、時勢を捉え、ご利用者の個性を尊重し、ニーズに対応したパソコン講座を通してこれまで以上に利用者の皆様のお役に立ち、ご信頼をいただき、希望荘になくてもならない存在を目指し、発展する新たな出発点とすることを心得、簡単ではございますが筆を置かせていただきます。

末筆になりましたが、パソコン講座のご利用者の皆様、ボランティアや研修生の皆様にご理解、ご協力、ご参加いただき、たくさんの方との出会いに深く感謝申し上げます。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

20年分のレシピと笑顔

希望荘料理講座

講師 上妻逸子

春の野菜料理、夏の冷たい麺類、秋のきのこご飯、クリスマスのケーキ、お正月の雑煮、ぜんざい…。季節に合わせて考えた料理レシピで希望荘料理講座に携わらせていただいて20年余りになります。

参加者の皆さんは、助け合いながら、それぞれの役割で腕をふるっています。料理を作り終えた後の「お疲れさまでした！いただきます！」の声を、毎回うれしく感じております。

当初は、包丁の使い方、火の扱い方に心配と戸惑いがありました。しかし、今では皆さんすっかり上手になり、盛り付けも自分流のアレンジを楽しみながら作れるようになりました。もちろん、時々失敗もあります。

これまで、参加者の皆さんの笑顔と、献身的にお手伝いしていただくボランティアの方々に支えていただき、本当に感謝いたしております。

これからも皆様と一緒に、ますます楽しい希望荘の料理講座にしていきたいと思っております。



あれから40年

希望荘ご利用者 松本桂介

希望荘開館40年にあたり、お祝い申し上げます。

希望荘の設立以前は、中央公民館や白川公園で障がい者の集いや例会などが催されてきました。役員会や総会等もそこで行なっていました。「会場が5階で疲れるため、どうにかならないか」との要望に対し、多門さん、他の理事さん、伊津野さん、川上さん、野田先生や市議会議員の方々が“障がい者のための新たな施設を”と力をふるって出た案が「市電の車庫の一部に建設してはどうか」というもので、市に交渉し、車庫の裏に着工することになりました。

完成した希望荘は、障がい者が誰でも出入りでき、障がい者の支部もできるようになりました。また、会議室・調理室・浴室・大広間などができました。小生も料理教室やペン習字、絵手紙講座を受講しました。

熊本地震では震度7の強い揺れで、熊本市内でも倒れた家屋があり、ケガ人や亡くなられた方もあったようです。希望荘も被災し、イオンの別館での利用は、会合や講座が限られていました。修理が終わり、元の希望荘に戻り、ふたたび皆さんが喜んで集う場所となり、うれしく思っています。



希望荘と私の出会い

希望荘ご利用者 中山 敬子

希望荘の開館 40 周年と聞き、改めて出会いを思い出しています。

偶然ですね、私が今の病気「多発性筋炎」という難病になったのも 40 年前です。それから長期療養することになりました。入院中にお見舞いいただいた一冊の本がペーパーフラワーの本でした。紙で作る花がいろいろ載っていたので、早速作ってみました。

ある日、新聞の「障がい者の作品募集」という記事を見て、その時作っていた花コスモスとススキを応募してみると、後日、優秀賞入選との知らせを受け、初めて希望荘へ行きました。式典には当時の市長さんも来られ、たくさんの方がいました。

のちに私も退院することができ、希望荘の七宝焼講座を受講することに。毎月 2 回希望荘へ通い、たくさんの方々と出会い、楽しい日々を過ごしました。障がいのある人も、ない人も一緒におしゃべりしたり、笑ったりと、笑顔になれる場所です。

気がつけば私も 30 年、希望荘にお世話になっています。感謝申し上げます。今はコロナ禍で集うことができませんが、一日も早く、にぎやかな希望荘となる日が来るのを心待ちにしています。



私たちの希望荘

出会いと楽しみが生まれる場所

希望荘ご利用者 松本 二美子

希望荘開館 40 周年おめでとうございます。

私が希望荘を利用するようになって、早いもので 6 年になるかと思います。希望荘では七宝焼や編み物などの講座に参加しており、地域活動支援センターでは入浴と送迎を利用しています。脳トレや機能訓練はそれぞれが楽しく、私の癒しと活力になっています。希望荘を利用し始めてから、多くの方と知り合い、触れ合いやコミュニケーションができるようになり、視野が広がったように思います。

季節ごとに計画される希望荘バスハイクでは、県内の様々な名所やイベントへ出かけ、お友達や、職員さんとお食事や買い物を楽しんでいます。

昨年の末には、震災復旧工事が進む熊本城へ見学に参りました。晴天と紅葉に恵まれ、良い一日を過ごしました。

今は新型コロナウイルスの影響で、希望荘での活動ができない状況が続いていますが、一日も早く収束して、皆さんと会えるよう願っています。



陶芸講座のこと

希望荘ご利用者 小形和義

私が受講している陶芸講座では、土をひも状にしたものを何層にも上に重ねるやり方や、土をそのまま茶わんの形にするやり方で形作ります。ドライヤーで乾かし、周りを道具で削ったり、先生に薄く削ってもらったりします。そのあと、先生にあずけ、釜で焼き上げてもらいます。以前、骨つぼを作られた生徒さんのために、それを入れる木箱を作ったりもしました。

9月には、講座で作ったお皿を熊本県伝統工芸館主催の「くらしの工芸展 2019」の審査会へ出品するため、先生に代理で搬入していただきました。この作品は、土をめん棒で薄くし、丸い穴をあけ、そこに色のついた土をはめ込み、また薄く伸ばしたら、作っておいた四角い型枠にはめ込んで角を落とし、ドライヤーで乾かし、型枠から取り出してまた乾かし、道具で少し削ってから先生にあずけました。審査には通らなかつたりもしましたが、講座はこれからも続けていきたいと思っています。



お気に入りのバスハイク

希望荘ご利用者 (ペンネーム) L i S A

希望荘では、季節ごとに大型福祉バスでお出かけをする「希望荘バスハイク」があります。無理なく参加できる行き先や時間設定なので、毎回楽しみにしています。これまで様々な場所やイベントへ出かけて、買い物や食事、レクリエーションを楽しんでいます。特に、以前出かけた「玉名高瀬裏川花しょうぶまつり」は、ちょうど満開の花が観賞でき、ホテルの美味しいランチバイキングと温泉で皆さんと和気あいあいに過ごし、楽しかったことを思い出します。

ただひとつ、私には心残りがあります。バスハイクでは、いつもアンケートを記入します。私は行ってみたい場所として「リゾラテラス天草」と書き続けました。ある時、願いが叶い、早速申し込みをしました。あいにく希望者が多く、抽選となり、残念ながら私は選ばれませんでした。後日、その日の楽しそうな様子を写真で見ると「次こそは私も行きたい！」と強く思いました。その後、コロナ感染症の影響でバスハイクが開催されず、私の願いはまだ叶えられていませんが、また皆さんと再会し、お出かけできる日を待っています。



つながりの始まり

ボランティア

長野 明 美

希望荘開館 40 周年、心よりお慶び申し上げます。

私は 26 年前に帰熊しましたが、当時は知人も無く、希望荘へ手話講座を申し込みに伺いました。その時、職員の方にボランティア活動を勧めていただき、さをり講座の皆さんとお会いしたのが希望荘とのつながりの始まりです。

さをり講座の日は、お茶の準備、さをり機や糸の準備、ドア開閉や片付けのお手伝いをし、空いた時間には先生の織機をお借りして、さをりを楽しみ、ショールやベストも作ることができています。また、手話講座の受講を通じて手話ソンググループや「さざんか」グループの仲間になり、手話劇や手話指導で学校訪問も経験させていただきました。さらに、編み物も経験できました。手話ダンスは 20 年以上続けており、老健施設、イベント、学校などへ出向き、障がいのある人、ない人に関わらず、楽しく交流することを目的にボランティアをしています。

希望荘バスハイクのボランティアでも、いろいろな所へご一緒し、お友達もたくさんできました。車椅子のサポートの難しさも感じました。

あるバスハイクの時、いつも夫婦でご一緒に参加されていた Y さんに「ご主人はお休み？」と声をかけると、「『天国』よ」とお返事があり、ビックリしたこともありました。亡くなられたご主人は、さをり教室で奥様の準備された糸を使って織られ、時々ハーモニカを吹いてくださっていた方でした。口ずさみながら、さをりをしたことを今も思い出します。もう少し楽しませていただきたかったです。

憩いの中で談笑した方々、下手な手話でも相手をしてくださったお友達、私は希望荘でたくさんの方々とつながりを得ました。

私なりに頑張ってきたボランティアですが、周りの多くの人達に支えられて今があることに感謝しています。またみなさんとお会いしたいですね。



40周年記念 インタビュー

希望荘シンボルマーク製作者 今福 祥太さん



希望荘のシンボルマークは、希望荘開館10周年を記念して平成元年(1989年)4月、一般公募により決定しました。

選ばれたのは当時、熊本西高校2年生の今福祥太さんの作品です。授業で学んだデザイン技法を生かし、希望荘の頭文字のKを車イスに人が乗っているようにデザインし、車輪の部分を赤い丸にして「希望」が表現されています。

応募のきっかけを教えてください。

父が当時、第二高校美術科でデザインの教師をしており、私も腕試しでシンボルマークに応募してみようとの思いから応募させていただきました。

選ばれた時の周りの方々の反応はいかがでしたか？

周りの人より自分が一番驚き、うれしかったです。当時の私の美術の先生は、父の先輩の信国先生でしたが、二人で授賞式に行ったことで、先生と父に「おめでとう」と言われました。

当時の自分に声をかけるとしたら？

小・中・高校、父のおかげもあり、美術に関してはいつも一生懸命でした。「あの時よくシンボルマーク応募したね」って言いたいです。今でも使用していただき感謝しています。

最後に、希望荘へメッセージをお願いします。

様々な場所で、様々な人が、様々な人と接して生活しています。希望荘の存続で、一人でも多くの人々が幸せを感じられることを願っています。頑張ってください。

現在、熊本市東区の「Bestガレージ」代表としてご活躍されている今福さん(右写真)。

急なインタビューのお願いだったにも関わらず、快く引き受けていただき、心より感謝申し上げます。



平成元年4月 市役所での表彰式
(希望荘だより第2号掲載)



現在の今福さん
24時間いつも一緒の
相棒りゅう君と一枚



希望荘40年のあゆみ

KIBOUSOU HISTORY OF 40 YEARS

1980-2020



熱いの間、相設室などが設けられている「希望荘」

熊本市福祉センター
「希望荘」が完成

身障者、精薄者施設
来月1日オープン
運営、利用は自主的に

熊本県は昨年九月末、四日大（熊本大学）の委託で、熊本市福祉センターの建設工事を完了させた。この施設は、身障者、精薄者（知的障害者）の生活支援センターとして、熊本市福祉センターの一角に設けられている。この施設は、熊本市福祉センターの一角に設けられている。この施設は、熊本市福祉センターの一角に設けられている。

熊本市福祉センターは、身障者、精薄者の生活支援を目的として、熊本市福祉センターの一角に設けられている。この施設は、熊本市福祉センターの一角に設けられている。この施設は、熊本市福祉センターの一角に設けられている。

熊本市福祉センターは、身障者、精薄者の生活支援を目的として、熊本市福祉センターの一角に設けられている。この施設は、熊本市福祉センターの一角に設けられている。この施設は、熊本市福祉センターの一角に設けられている。

希望荘 完成
(熊本日日新聞 昭和55年(1980)5月22日付)

西暦	元号	月	できごと
1979	昭和54	9月	5日 市社会福祉センター(仮称) 起工式
1980	昭和55	5月	27日 熊本市福祉センター希望荘 落成式
		6月	1日 希望荘 開館
		7月	希望荘夏まつり実行委員会
		8月	第1回希望荘夏まつり 希望荘夏まつり実行委員会反省会 利用者1万人
		11月	第1回心身障がい者作品展
		12月	熊本市心身障がい者成人式打合せ会
1981	昭和56	1月	第1回熊本市心身障がい者成人式
		2月	希望荘運営委員会
		7月	希望荘夏まつり実行委員会
		8月	福祉車両(ミニあゆみ号)設置 教室開講(手話・華道・点字・料理・茶道) 相談業務開始(結婚・行政・就職) 第2回希望荘夏まつり
		11月	第2回心身障がい者作品展
1982	昭和57	1月	第2回熊本市心身障がい者成人式
		3月	希望荘運営委員会
		8月	希望荘運営委員会 第3回希望荘夏まつり
		10月	第3回心身障がい者作品展
1983	昭和58	1月	第3回熊本市心身障がい者成人式 利用者5万人
		3月	希望荘運営委員会
		8月	第4回希望荘夏まつり
		9月	希望荘運営委員会
		10月	第4回心身障がい者作品展
		12月	希望荘運営委員会



希望荘 落成式
(熊本日日新聞 昭和55年5月28日付)



昭和55年8月 第1回希望荘夏まつり



昭和55年11月 第1回心身障がい者作品展

西暦 元号 月 できごと

1984	昭和59	1月	第4回熊本市心身障がい者成人式
		3月	希望荘運営委員会
		8月	第5回希望荘夏まつり
		10月	第5回心身障がい者作品展
		12月	希望荘運営委員会
1985	昭和60	1月	第5回熊本市心身障がい者成人式
		3月	希望荘運営委員会
		4月	利用者10万人
		8月	第6回希望荘夏まつり
		10月	第6回心身障がい者作品展
		11月	希望荘デイサービス事業開始 講座開講式(手話・点字・絵画・書道・編み物)
1986	昭和61	1月	第6回熊本市心身障がい者成人式
		3月	聴覚障がい者専用ミニファックス設置 希望荘運営委員会
		7月	福祉講演会
		8月	第7回希望荘夏まつり 福祉講演会
		9月	希望荘運営委員会
		10月	福祉講演会 第7回心身障がい者作品展
1987	昭和62	1月	第7回熊本市心身障がい者成人式 希望荘運営委員会
		2月	希望荘結婚相談事業第1号カップル結婚式
		5月	利用者15万人
		8月	第8回希望荘夏まつり
		9月	福祉講演会
		10月	第8回心身障がい者作品展
		11月	希望荘運営委員会 福祉講演会



昭和61年3月
聴覚障がい者専用ミニファックス設置



昭和62年4月 希望荘講座開講式



昭和59年10月 第5回心身障がい者作品展

40年のあゆみ

● 希望荘 40 年のあゆみ

西暦 元号 月 できごと

- 1987 昭和62 11月 施設訪問(桜ヶ丘寿徳苑)
- 12月 第1回希望荘クリスマス会
- 1988 昭和63 1月 第8回熊本市心身障がい者成人式
福祉講演会
- 3月 希望荘運営委員会
- 4月 福祉講演会
- 6月 運営委員視察研修(別府市太陽の家)
- 8月 施設訪問(たちばな園)
第9回希望荘夏まつり
- 9月 希望荘運営委員会
- 10月 施設訪問(くまむた荘)
第9回心身障がい者作品展
- 11月 生活文化講演会
福祉講演会
施設訪問(たちばな園)
- 12月 第2回希望荘クリスマス会
- 1989 平成元 1月 元号が「平成」に改元
第9回熊本市心身障がい者成人式
福祉講演会
- 3月 希望荘運営委員会
- 4月 **希望荘シンボルマークが決定**
「希望荘だより」第1号発行
- 5月 第1次モデル校区(大江・白川)在宅障がい者へのふれあい訪問開始
「希望荘だより」第2号発行
- 6月 希望荘障がい者別介護教室
- 7月 「希望荘だより」第3号発行
- 8月 希望荘障がい者別介護教室
第1次モデル校区ふれあい訪問懇談会
希望荘ボランティア子供教室
第10回希望荘夏まつり
- 9月 希望荘運営委員会



昭和63年12月 第2回希望荘クリスマス会



希望荘シンボルマーク決定



昭和63年8月 第9回希望荘夏まつり

西暦 元号 月

できごと

1989 平成元 10月

「希望荘だより」第4号発行

11月

希望荘第1回ボランティア交流会
運営委員先進地視察(神戸市しあわせの村)
第10回心身障がい者作品展
福祉講演会

「希望荘だより」第5号発行

1990 平成2 1月

利用者20万人
第10回熊本市心身障がい者成人式

3月

在宅障がい者とデイサービス教室利用者の交流レクリエーション
福祉講演会

希望荘ふれあいパーティーお見合い会

「希望荘だより」第6号発行

希望荘運営委員会

4月

福祉バス(新あゆみ号)出発式

6月

希望荘開館10年

希望荘開館10周年記念式典実行委員会

希望荘障がい者別介護教室

7月

「希望荘だより」第7号発行

希望荘開館10周年記念式典(メルパルク熊本)

希望荘障がい者別介護教室

8月

開館10周年記念 第11回希望荘夏まつり

9月

希望荘運営委員会

10月

運営委員視察研修(都城市社会福祉協議会)

開館10周年記念 地域とのふれあい祭(大江市民センター)

第2次モデル校区(城東・向山・託麻原)ふれあい訪問

1991 平成3 1月

第11回熊本市心身障がい者成人式

ボランティアスクール

2月

第2次モデル校区ふれあい訪問懇談会

3月

「希望荘だより」第8号発行

希望荘運営委員会

開館10周年記念 ふれあい映画祭

希望荘開館10周年記念誌「熊本市福祉センター希望荘十年のあゆみ」発行



平成2年7月 希望荘開館10周年記念式典



平成2年10月 運営委員視察研修



平成3年3月
希望荘十年のあゆみ 発行



平成2年10月 開館10周年記念 地域とのふれあい祭 (大江市民センター)

40年のあゆみ

西暦	元号	月	できごと
1991	平成3	8月	第12回希望荘夏まつり
		9月	希望荘ふれあい総合相談所 開設
		10月	希望荘と地域とのふれあい祭(水道端公園)
1992	平成4	11月	第12回希望荘ふれあい文化祭作品展
		1月	熊本市心身障がい者成人式
		8月	第13回希望荘夏まつり
1993	平成5	10月	希望荘と地域とのふれあい祭(水道端公園)
		11月	第13回希望荘ふれあい文化祭作品展
		1月	熊本市心身障がい者成人式
1994	平成6	2月	ボランティア育成交流会(大江小学校)
		7月	希望荘デイサービスセンター 開設
		8月	第14回希望荘夏まつり
1995	平成7	11月	希望荘と地域とのふれあい祭(水道端公園)
		12月	希望荘ふれあい文化祭作品展
		1月	熊本市心身障がい者成人式
1996	平成8	2月	ボランティア育成交流会
		4月	ふれあい総合相談所に「ふれあいサロン」開設
		7月	ふれあい総合相談所が「熊日緑のリボン賞」受賞
			希望荘ふれあい総合相談シンポジウム開催
		8月	第16回希望荘夏まつり
		11月	第16回希望荘文化祭作品展
		12月	ボランティア育成交流会
			希望荘ときめきクリスマスパーティー
		1月	熊本市心身障がい者成人式
			ボランティア育成交流会
		8月	第17回希望荘夏まつり
		11月	第17回希望荘文化祭作品展
		12月	希望荘専用駐車場が整備される



ふれあい総合相談所開設から半年
(熊本日日新聞 平成4年5月10日付)



西暦 元号 月

できごと

- 1997 平成9 1月 熊本市障がい者成人式
- 2月 ボランティア育成交流会(春竹小学校)
- 3月 ふれあい総合相談所開設5周年記念 相談事例冊子 発行
- 8月 第18回希望荘夏まつり
- 11月 第18回希望荘文化祭作品展
運営委員視察研修(岡山市くわのみどりの家)
- 12月 希望荘ときめきクリスマスパーティー
- 1998 平成10 1月 熊本市障がい者成人式
- 8月 第19回希望荘夏まつり
- 11月 第19回希望荘文化祭作品展
- 1999 平成11 1月 熊本市障がい者成人式
- 3月 ボランティア育成交流会
- 8月 第20回希望荘夏まつり
- 11月 第20回希望荘文化祭作品展
- 2000 平成12 1月 熊本市障がい者成人式
- 6月 **希望荘開館20年**
- 8月 第21回希望荘夏まつり
- 11月 開館20周年記念 第21回希望荘文化祭作品展
- 12月 開館20周年記念 第26回熊本市社会福祉大会いきいきふれあいまつり(熊本市交流会館)
- 2001 平成13 1月 熊本市障がい者成人式
- 8月 第22回希望荘夏まつり
- 9月 ふれあい総合相談所 開設10年
- 11月 第22回希望荘文化祭作品展
- 2002 平成14 1月 熊本市障がい者成人式
- 8月 第23回希望荘夏まつり
- 11月 第23回希望荘文化祭作品展
- 12月 クリスマスレクリエーション
- 2003 平成15 1月 熊本市希望荘成人式
- 8月 第24回希望荘夏まつり
- 11月 第24回希望荘文化祭作品展



平成9年8月 第18回希望荘夏まつり



平成9年11月 運営委員視察研修



希望荘だより第21号(平成13年3月発行)



平成12年12月 開館20周年記念
第26回熊本市社会福祉大会いきいきふれあいまつり

障害者支えて10年

熊本市希望荘「ふれあい相談」

資格講座の開設も計画

「ふれあい相談」は、熊本市希望荘が中心となり、障害者支援の推進を図る。今年10月10日、開館10周年を迎える。この機会に、希望荘の活動や、障害者支援の現状について、市民に広く知らせる。また、希望荘の活動や、障害者支援の現状について、市民に広く知らせる。

熊本市希望荘「ふれあい相談」

資格講座の開設も計画

ふれあい総合相談所開設10年(熊本日日新聞 平成14年1月26日付)

40年のあゆみ

● 希望荘 40 年のあゆみ

西暦	元号	月	できごと
2004	平成16	1月	熊本市希望荘成人式
		3月	ボランティア育成交流会
		8月	第25回希望荘夏まつり
		9月	希望荘運営委員会
		11月	運営委員視察研修(北九州市ウエルとばた) 第25回希望荘文化祭作品展
2005	平成17	12月	クリスマスレクリエーション
		1月	熊本市希望荘成人式
		3月	希望荘運営委員会
		6月	ボランティア育成交流会 希望荘運営委員会
2006	平成18	8月	第26回希望荘夏まつり
		11月	第26回希望荘文化祭作品展
		1月	熊本市希望荘成人式
		3月	希望荘運営委員会 希望荘の管理運營業務が熊本市社会福祉協議会から熊本市へ移管
		4月	熊本市社会福祉事業団が管理運營業務を受託「熊本市障がい者福祉センター希望荘」へ
2007	平成19	6月	希望荘運営委員会
		7月	第27回希望荘夏まつり
		10月	障害者自立支援法施行に伴い、デイサービスセンターが「地域活動支援センター」へ 希望荘運営委員会
		11月	第27回希望荘文化祭作品展
		5月	希望荘運営委員会
2008	平成20	7月	第28回希望荘夏まつり
		9月	希望荘運営委員会
		11月	第28回希望荘文化祭作品展
		5月	希望荘運営委員会
		7月	第29回希望荘夏まつり
		10月	希望荘運営委員会
		11月	第29回希望荘文化祭作品展
		12月	クリスマス会(九州学院高等学校コーラス部)



平成16年8月 第25回希望荘夏まつり



希望荘リーフレット



熊本市希望荘成人式(熊本日日新聞 平成17年1月11日付)



平成20年7月 第29回希望荘夏まつり

西暦 元号 月

できごと

- 2009 平成21 5月 希望荘運営委員会
- 7月 第30回希望荘夏まつり
- 9月 希望荘運営委員会
- 11月 第30回希望荘文化祭作品展
希望荘バスハイク開始
- 12月 クリスマス会(九州学院高等学校コーラス部)
- 2010 平成22 3月 リフト付き福祉バスが新しくなる
- 5月 希望荘運営委員会
- 6月 **希望荘開館30年**
希望荘ホームページ開設
- 7月 開館30周年記念 第31回希望荘夏まつり
- 9月 希望荘運営委員会
- 12月 開館30周年記念功労者表彰式 第31回希望荘文化祭作品展
クリスマス会(九州学院高等学校コーラス部)
- 2011 平成23 5月 希望荘運営委員会
- 7月 第32回希望荘夏まつり
館内に成人用おむつ交換スペースを設置
- 10月 希望荘運営委員会
- 11月 第32回希望荘文化祭作品展
- 12月 クリスマス会(九州学院高等学校コーラス部)
- 2012 平成24 5月 希望荘運営委員会
- 7月 第33回希望荘夏まつり
- 8月 バリアフリー映画観賞会
- 9月 希望荘運営委員会
- 11月 第33回希望荘文化祭作品展
- 12月 クリスマス会(九州学院高等学校コーラス部)
- 2013 平成25 5月 希望荘運営委員会
- 7月 第34回希望荘夏まつり
- 8月 バリアフリー映画観賞会
- 11月 第34回希望荘文化祭作品展



希望荘ホームページ 開設



成人用おむつ交換スペース設置
(熊本日日新聞 平成23年7月9日付)



平成22年12月 開館30周年記念功労者表彰式



第31回希望荘文化祭作品展



40年のあゆみ

● 希望荘 40 年のあゆみ

西暦	元号	月	できごと
2014	平成26	2月	希望荘運営委員会
		6月	希望荘運営委員会
		8月	台風のため第35回希望荘夏まつり中止 バリアフリー映画観賞会
		10月	希望荘運営委員会
		11月	第35回希望荘文化祭作品展・秋まつり
		12月	クリスマス会(九州学院高等学校コーラス部)
2015	平成27	4月	希望荘運営委員会
		8月	第35回希望荘夏まつり バリアフリー映画観賞会
		9月	希望荘運営委員会
		11月	第36回希望荘文化祭作品展
		12月	クリスマス会(九州学院高等学校コーラス部)
2016	平成28	4月	14日 熊本地震により被災 希望荘休館
		6月	玄関前テントに情報広場を開設し、ふれあい総合相談再開 事業団他施設で地域活動支援センターの入浴サービス再開 福祉バス運行再開・震災復興バスハイク開催
		8月	大江公民館等で一部の学習講座再開
		9月	「地活だより」第1号発行
		10月	希望荘運営委員会
		12月	イオン熊本中央店2階に代替施設「希望荘別館」開設
		2017	平成29
9月	希望荘運営委員会		
11月	希望荘フェスタ2017(イオン熊本中央店内)		
12月	クリスマス会(中央デイサービスセンター内)		
2018	平成30	3月	バリアフリー映画観賞会(イオン熊本中央店内)
		4月	希望荘ホームページに音声読み上げ機能を導入
		5月	希望荘運営委員会
		9月	希望荘運営委員会
		11月	希望荘フェスタ2018(イオン熊本中央店内)
12月	クリスマス会(中央デイサービスセンター内)		



平成26年12月 クリスマス会



平成28年12月 希望荘別館開設



平成30年3月 バリアフリー映画観賞会



平成29年11月 希望荘フェスタ2017



平成30年11月 希望荘フェスタ2018



● 希望荘 40年のあゆみ

西暦	元号	月	できごと
2019	平成31	3月	バリアフリー映画観賞会(イオン熊本中央店内) 3月 熊本地震復旧工事完了に伴い、希望荘別館を閉鎖 4月 1日 希望荘再開
	令和元	5月	元号が「令和」に改元 希望荘運営委員会
		7月	希望荘運営委員会
		8月	バリアフリー映画観賞会
		9月	希望荘運営委員会
		11月	復興記念 希望荘チャレンジフェスタ2019
		12月	希望荘運営委員会 クリスマス会(九州学院高等学校コーラス部)
2020	令和2	2月	県内で新型コロナウイルス感染症の患者が確認される
		3月	感染防止対策や利用制限などの対応をとりながら運営 年間行事が相次いで中止となる
		6月	希望荘開館40年
		7月	希望荘運営委員会(開館40周年記念行事の延期を決定)
		8月	希望荘LINE公式アカウント開設
		10月	窓口に対話支援機器を設置
		11月	希望荘運営委員会
2021	令和3	1月	新型コロナウイルス感染症拡大で県内独自の緊急事態宣言発令
		2月	1階ロビーにデジタルサイネージ(電子看板)を設置
		3月	希望荘開館40周年記念功労者表彰選考委員会 希望荘開館40周年記念誌「希望荘40年のあゆみ」発行



令和元年12月 クリスマス会

※平成4年～平成15年までの希望荘運営委員会などについては、記録資料の処分等により未記載



平成31年4月 希望荘再開



令和元年11月 復興記念 希望荘チャレンジフェスタ2019

障がいに関する制度年表

年	月	制 度
1981(昭和56)		国際障害者年
1988(昭和63)	7	精神衛生法から精神保健法へ改正・改称
1989(平成元)	5	手話通訳士制度 創設
1990(平成2)	6	福祉関係八法 改正
1993(平成5)	12	障害者基本法 施行
1995(平成7)	7	精神保健法から精神保健福祉法へ改正・改称
1999(平成11)	4	精神薄弱者福祉法から知的障害者福祉法へ改称
2003(平成15)	4	措置制度から支援費制度へ(2006年自立支援法へ移行)
2004(平成16)	6	障害者基本法 改正(一部は2005年4月・2007年4月から施行)
2005(平成17)	4	発達障害者支援法 施行
2006(平成18)	4	障害者自立支援法(現 障害者総合支援法) 施行(一部は同年10月施行)
2008(平成20)	1	熊本県 ハートフルパス制度 導入
	5	国連 障害者権利条約 発効(日本は2014年1月に批准、同年2月から発効)
2011(平成23)	8	障害者基本法 改正(一部は2012年5月から施行)
	10	つなぎ法 施行(障害者自立支援法等 改正、一部は2012年4月から施行)
2012(平成24)	4	熊本県 障害のある人もない人も共に生きる熊本づくり条例 施行
	4	熊本市 政令指定都市へ移行
	10	障害者虐待防止法 施行
2013(平成25)	4	障害者総合支援法 施行(一部は2014年4月から施行)
2015(平成27)	1	難病法 施行
2016(平成28)	4	障害者差別解消法 施行
	4	障害者雇用促進法 改正
2018(平成30)	4	障害者総合支援法 改正(一部は2016年から施行)
2020(令和2)	4	熊本市 手話言語条例 施行

寄贈・寄付一覧

年	寄贈・寄付団体	寄贈品・寄付
平成12	メガネのヨネザワ	拡大読書器
	慶誠高等学校ペンフレンドクラブ	車イス
	富士記念財団	電動車イス1台
平成13	慶誠高等学校ペンフレンドクラブ	車イス1台・シルバーカー1台
平成14	慶誠高等学校ペンフレンドクラブ	車イス2台
	富士重工関連労働組合連合会	リフト付き軽ワゴン車1台
平成15	慶誠高等学校ペンフレンドクラブ	車イス
平成16	慶誠高等学校ペンフレンドクラブ	車イス2台
平成17	慶誠高等学校ペンフレンドクラブ	車イス
平成18	慶誠高等学校ペンフレンドクラブ	車イス2台・浴室イス2脚
	極楽とんぼの会	車イス3台
平成19	慶誠高等学校ペンフレンドクラブ	車イス3台
平成22	イオン社会福祉基金	福祉車両1台
	39会	車イス1台
平成23	オートバックス浜線店	利用者用パソコンほか備品
	慶誠高等学校ペンフレンドクラブ	車イス3台
平成24	慶誠高等学校ペンフレンドクラブ	車イス3台
平成25	慶誠高等学校ペンフレンドクラブ	車イス2台
平成26	熊本信用金庫	福祉車両1台
平成27	NTT西日本熊本支店	電話お願い手帳ほか
平成30	慶誠高等学校ペンフレンドクラブ	空気清浄機・掃除機・扇風機
平成31	慶誠高等学校ペンフレンドクラブ	ルームランナー・電動バット



車いす贈呈式
(熊本日日新聞 平成13年9月27日付)



平成22年2月 寄贈された福祉車両



平成19年12月 車いす贈呈式



平成26年2月 寄贈された福祉車両

地域活動 支援センター



平成 5 年 7 月、希望荘デイサービスセンターは開設されました。

平成 18 年 10 月の障害者自立支援法施行に伴い、地域活動支援センターⅡ型となり、今年で開設 27 年目を迎えました。地域活動支援センターⅡ型(地活)では、雇用・就労の困難な在宅障がい者の皆様へ、入浴・機能訓練・健康体操・創作活動・日帰り旅行・レクリエーションのサービスを実施し、地域生活支援をおこなっています。



地域活動支援センターのあゆみ

年	月	主なできごと
平成 5	7月	希望荘デイサービスセンター開設
平成 18	4月	障害者自立支援法施行に伴い「地域活動支援センターⅡ型」となる
平成 24	4月	ボウリング大会
	5月	リフレッシュ教室
	7月	のう活麻雀
	8月	グランドゴルフ大会
平成 25	2月	春の歌まつり
	7月	健康麻雀交流会
	9月	秋の十五夜歌まつり
	10月	創作活動(オリジナルハンカチ作成教室)
	11月	秋の着物リメイクファッションショー
平成 26	1月	童謡コンサート
	5月	ふれあいコンサート
	6月	わくわくお楽しみ運動会
平成 28	4月	熊本地震により希望荘休館
	6月	事業団の他施設にて入浴サービス再開
	8月	ミニバスハイク(熊本城・伝統工芸館)
	9月	地活だより第1号発行 ミニバスハイク(熊本新港)
	10月	ふれあい SUN デイ(ハモニカ・ジャンケンゲーム) ミニバスハイク(草枕温泉)
	12月	イオン熊本中央店に「希望荘別館」開設
	1月	ミニバスハイク(初詣)
平成 29	3月	ミニバスハイク(お花見ツアー)
	6月	ミニバスハイク(住吉自然公園あじさい園)
	8月	ふれあい SUN デイ(ちょんかけゴマ・歌謡フラダンス)
	9月	ミニバスハイク(熊本県伝統工芸館)
	10月	ふれあい SUN デイ(熊本劉二胡クラブ・あっぱれ座)
	12月	クリスマス会(中央デイサービスセンターにて)



地域活動支援センターのあゆみ

年	月	主なできごと
平成 30	2月	ミニバスハイク(くまもと植木市)
	6月	ミニバスハイク(住吉自然公園あじさい園)
	7月	ミニバスハイク(崇城大学食モンマルト食事会)
	8月	ミニバスハイク(熊本新港)
	9月	日帰り旅行(藍のあまくさ村)
	10月	ミニバスハイク(塚原古墳)
平成 31	4月	希望荘再開 地域活動支援センター再開(一部サービス休止)
	令和元	6月
令和元	7月	創作活動(アクセサリー) 一般浴利用再開
	8月	創作活動(うちわ)
	9月	日帰り旅行(長洲金魚の館・南関いきいき村)
	令和2	1月
令和2	3月	創作活動(手作りマスク・スクラップブック)
	4月	新型コロナウイルス感染症拡大の為、一部サービス休止
	8月	地活 LINE 公式アカウント開設
	10月	日帰り旅行(七城メロンドーム・きくち物産館)
	11月	創作活動(フェイスシールド)
	12月	クリスマスレクリエーション



これからも楽しい思い出を一緒につくっていきましょう♪

地域活動支援センターご利用者インタビュー

地域活動支援センターをご利用いただいている皆様に、
お話をうかがいました! ※ 地域活動センターを「地活」と表記



吉村 スエノ 様
ご利用年数 40年

■ 希望荘を利用されたきっかけは何ですか？

熊本県身体障害者福祉団体連合会の当時の会長から希望荘ができることを聞いていて「市政だより」でオープンを知りました。

■ 希望荘や地活での活動で、印象に残っていることや嬉しかった思い出などはありますか？

希望荘の夏まつり、カラオケ大会や盆踊り、露店など皆で協力して楽しかった！忘れられないです！！

■ 今後、希望荘や地活での活動で、やりたいことや希望することはありますか？

地域活動支援センターでさまざまな利用者がもっと参加できる企画をしてほしい。

■ 最後にメッセージをお願いします！

コロナが収束したら、スタッフや他の利用者みんなと協力し地域の方ともっと触れ合える企画をお願いしたいです！！

地域活動支援センターご利用者インタビュー

田中 あい 様
ご利用年数 27年



■希望荘を利用されたきっかけは何ですか？

中学生のときに、希望荘の大ホールで学習発表会や卒業生を送る会などで利用していましたが、今も続けている組紐講座は市政だよりで知りました。

■希望荘や地活での活動で、印象に残っていることや嬉しかった思い出などはありますか？

大ホールであった成人式に参加したこと、30歳のときには壇上に登って先輩からのメッセージを送ったことです。

■今後、希望荘や地活での活動で、やりたいことや希望することはありますか？

風船バレーが好きなので、コロナが収まったらまた参加したいです！

■最後にメッセージをお願いします！

これからもずっと希望荘にきたいです！！

岡村 幸男 様
ご利用年数 14年以上



■希望荘を利用されたきっかけは何ですか？

町内の役員さんから希望荘でお風呂が利用できると教えていただいたこと。

■希望荘や地活での活動で、印象に残っていることや嬉しかった思い出などはありますか？

希望荘での創作活動で作った絵などを頂いたこと。

■今後、希望荘や地活での活動で、やりたいことや希望することはありますか？

今後もお風呂を利用していきたいです。

■最後にメッセージをお願いします！

リハビリで歩く練習ができて嬉しいです！！

地域活動支援センターご利用者インタビュー

石原 陽平 様
ご利用年数 5 年



■ 希望荘を利用されたきっかけは何ですか？

イルカの会(勤務先)でバスハイクがあり、その集合場所が希望荘だったことがあり、知りました。

■ 希望荘や地活での活動で、印象に残っていることや嬉しかった思い出などはありますか？

仕事の関係で希望荘に販売にも来ていますし、居場所(お話する場所)として大きい存在です。

■ 今後、希望荘や地活での活動で、やりたいことや希望することはありますか？

カラオケや日帰り旅行にまた行きたいです！ 宿泊もいいですね…。

■ 最後にメッセージをお願いします！

希望荘を利用して居場所も増え、音楽が好きなこともあり共通の趣味を持っている方とお話できることが嬉しいです。このつながりを大切にして、災害にも負けない希望荘でいてください！！

これまでも、これからも。

平成 5 年 7 月に開設された希望荘デイサービスセンター(地域活動支援センター)は、今年で 27 年目を迎えました。

近年では、熊本地震や新型コロナウイルス感染症の流行などにより利用者の皆様にご不便をおかけする状況が続く中ではありますが、「私たちに“今”できることは何か」を考え、皆様と共に支えあい、乗り越えてまいります。

今後も感謝の気持ちを忘れず、ご利用者の皆様にとって居心地のよい場所となるよう努めてまいります。

これからもよろしくお願いいたします。



希望荘地域活動支援センター職員一同



資料編



熊本市障害者福祉センター希望荘概要

開館年月日	昭和55年6月1日（平成5年 地域活動支援センター増築）
所在地	熊本市中央区大江5丁目1番15号
設置主体	熊本市
指定管理者	社会福祉法人熊本市社会福祉事業団
職員数	管理者(館長) 1名 副館長 1名 理学療法士 1名 ほか支援員 12名 (計) 15名
建物概要	(構造) 鉄筋コンクリート造4階建 (敷地面積) 1,159.68 m ² (延床面積) 1,923.62 m ²
施設概要	事務室・憩の間・相談室・大ホール・会議室A・料理実習室 和室研修室A・音楽室・会議室B・和室研修室B・プレイルーム 多目的訓練室・浴室・特浴室・脱衣室・ラウンジ 身体障がい者用トイレ4ヶ所
付帯施設	敷地内駐車場、駐車場
附属設備	送迎バス3台・福祉バス1台
利用の範囲	<ul style="list-style-type: none"> ・熊本市に居住する又は熊本市に活動の拠点をもつる者に規定する障がい者、その家族や介護者 ・障がい者福祉に係る関係者および団体 ・熊本市長が認めたもの
使用料	無料（入浴料除く）
主な事業	貸し館事業、学習講座、ボランティア育成講座、福祉バス運行 ふれあい総合相談会、ふれあい事業(作品展、交流イベント) 自主事業(バスハイク、映画観賞会、クリスマス会、ふれあい ギャラリー、その他レクリエーション)
地域活動支援センター事業	日常生活訓練、社会適応訓練、創作的訓練、機能訓練 介護方法相談支援、入浴サービス(機械浴・一般浴)、送迎サービス
開館時間	午前9時から午後6時まで(地域活動支援センターは午後5時まで)
休館日	火曜日 (ただし休館日が休日に当たる時は、翌日以降において休日でない日) 国民の祝日に関する法律に定める休日 12月29日から翌年1月3日
運営委員会	身体障がい者関係代表 (肢体1名・視覚1名・聴覚1名) 知的障がい者関係代表 1名 精神障がい者関係代表 1名 学識経験者 1名 社会福祉関係代表 2名 地域関係代表 1名 (計) 9名

外観



1階 玄関



1階 ロビー



1階 憩いの間



2階 大ホール



2階 会議室A



2階 音楽室



2階 和室研修室A



2階 料理実習室



2階 地域活動支援センター



3階 会議室B



3階 プレイルーム



3階 和室研修室B



3階 パソコン室



3階 浴室



送迎バス



リフト付き福祉バス



施設利用者推移

昭和55年度～平成2年度まで

(人)

事項 / 年度	昭和55年	昭和56年	昭和57年	昭和58年	昭和59年	昭和60年
のべ施設利用者数	15,876	17,246	18,541	20,876	20,921	24,457
希望荘講座受講者数	517	712	812	896	912	2,241
福祉バス利用者数	1,015	1,330	1,064	1,810	1,314	1,816
夏まつり 来場者数	450	500	600	740	800	740
作品展出品者数・出品団体数	64・0	38・12	18・12	20・18	16・17	27・20
成人式 新成人出席数	21	18	24	30	30	28

事項 / 年度	昭和61年	昭和62年	昭和63年	平成元年	平成2年
のべ施設利用者数	21,864	22,967	22,450	19,647	20,080
希望荘講座受講者数	2,894	4,008	5,087	5,616	6,200
福祉バス利用者数	1,382	1,351	2,156	2,781	3,015
夏まつり 来場者数	705	815	700	700	706
作品展出品者数・出品団体数	34・26	37・25	40・24	45・23	34・11
成人式 新成人出席数	28	43	57	51	64

※ 平成3年～平成17年までの推移については記録資料の処分により未記載

平成18年度～令和2年度まで（熊本市社会福祉事業団による指定管理期間）

(人)

事項 / 年度	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
のべ施設利用者数	24,334	24,375	25,914	30,764	29,749	34,948
貸館全利用合計者数	20,290	18,753	20,070	24,604	23,950	28,741
貸館利用者	19,056	16,965	18,253	16,226	14,295	16,432
講座受講者	—	—	—	5,080	4,524	4,621
自主事業参加者	—	—	—	82	60	149
憩いの間利用者	—	—	—	800	2,157	4,181
ふれあい総合相談利用者	—	—	—	180	241	251
福祉バス利用者	1,234	1,788	1,817	2,236	2,673	3,107
夏まつり 来場者のべ人数	457	490	553	543	611	623
文化祭 来場者のべ人数	294	455	470	416	514	454
地域活動支援センター利用者	3,293	4,677	4,821	5,201	4,674	5,130
ふれあい総合相談件数	85件	101件	108件	254件	158件	183件

(人)

事 項 / 年 度	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
のべ施設利用者数	37,479	37,748	37,747	37,292	6,411	14,294
貸館全利用者数	30,584	30,775	31,559	30,962	4,890	11,060
貸館利用者	18,788	18,609	19,870	19,368	1,032	2,791
講座受講者	4,974	4,827	4,421	4,270	720	1,144
自主事業参加者	264	1,270	936	977	33	460
憩いの間利用者	3,337	2,750	2,996	3,147	677	3,549
ふれあい総合相談利用者	273	312	311	349	317	347
福祉バス利用者	2,948	3,007	3,025	2,851	2,111	2,769
夏まつり 来場者のべ人数	676	664	中止	496	中止	588
文化祭 来場者のべ人数	479	351	419	420	中止	
地域活動支援センター利用者	5,740	5,958	5,769	5,414	1,521	2,646
ふれあい総合相談件数(件)	187件	215件	212件	272件	236件	264件

(人)

事 項 / 年 度	平成30年	令和元年	令和2年
のべ施設利用者数	15,352	25,873	8,270
貸館全利用者数(人)	11,832	20,776	5,568
貸館利用者	2,839	11,746	2,590
講座受講者	1,147	3,700	480
自主事業参加者	452	520	21
憩いの間利用者	4,392	2,127	1,900
ふれあい総合相談利用者	341	380	215
福祉バス利用者	2,661	2,303	362
チャレンジフェスタ来場者のべ人数	521	1,080	中止
地域活動支援センター利用者	2,999	4,017	2,702
ふれあい総合相談件数	301件	330件	160件

※平成28年4月 熊本地震により被災し、希望荘休館

※平成28年12月 隣接するイオン店内に代替施設「希望荘別館」を開設

※平成29年11月以降、夏まつりと文化祭作品展を統合し、「希望荘チャレンジフェスタ」を開催

※平成31年4月 熊本地震復旧工事完了に伴い希望荘の利用再開

※令和2年2月～令和3年3月 新型コロナウイルス感染症拡大により利用制限・休止を伴う運営

希望荘歴代館長

(熊本市社会福祉事業団による指定管理者受託期間のみ掲載)

在任期間	氏 名
平成18年4月 ～ 平成19年3月	長 田 紀 義
平成19年4月 ～ 平成22年3月	住 本 和 弥
平成22年4月 ～ 平成22年11月	加 来 英 雄
平成22年11月～ 平成23年3月	住 本 和 弥
平成23年4月 ～ 平成27年3月	幅 孝 行
平成27年4月 ～ 令和2年3月	住 本 和 弥
令和2年4月 ～ 現 在	石 川 秀 佳

希望荘歴代運営委員

(熊本市社会福祉事業団による指定管理者受託期間のみ掲載)

年 月	運営委員長	運営委員		
平成18年4月 (2006年)	寺本克己	田中文昭	内藤満夫	甲斐則幸
		川村隼秋	松本正隆	川本浩右
		大橋 康	野田美西	新立順子
平成19年4月 (2007年)	寺本克己	村上芳継	内藤満夫	甲斐則幸
		川村隼秋	松本正隆	川本浩右
		大橋 康	金森 正	新立順子
平成20年4月 (2008年)	寺本克己	村上芳継	内藤満夫	甲斐則幸
		川村隼秋	松本正隆	川本浩右
		大橋 康	磯谷俊明	新立順子
平成21年4月 (2009年)	寺本克己	村上芳継	内藤満夫	甲斐則幸
		川村隼秋	松本正隆	川本浩右
		渡辺和男	磯谷俊明	新立順子
平成22年4月 (2010年)	寺本克己	村上芳継	林 忠	甲斐則幸
		川村隼秋	宮田喜代志	川本浩右
		緒方民治	磯谷俊明	新立順子
平成23年4月 (2011年)	寺本克己	村上芳継	林 忠	甲斐則幸
		川村隼秋	宮田喜代志	川本浩右
		緒方民治	檜原昭夫	千田新一
平成24年4月 (2012年)	寺本克己	村上芳継	林 忠	甲斐則幸
		川村隼秋	宮田喜代志	川本浩右
		緒方民治	檜原昭夫	千田新一
平成25年4月 (2013年)	川本浩右	多門文雄	村上芳継	岡本恭典
		甲斐則幸	川村隼秋	宮田喜代志
		緒方民治	森下徹則	千田新一

年 月	運営委員長	運営委員		
平成26年4月 (2014年)	川本浩右	多門文雄	村上芳継	岡本恭典
		甲斐則幸	川村隼秋	宮田喜代志
		田中哲也	城生昌隆	
平成27年4月 (2015年)	川本浩右	多門文雄	村上芳継	岡本恭典
		甲斐則幸	川村隼秋	宮田喜代志
		石原純生	城生昌隆	
平成28年4月 (2016年)	川本浩右	多門文雄	天川浩彦	東 禎
		甲斐則幸	川村隼秋	宮田喜代志
		中川奈穂子	城生昌隆	
平成29年4月 (2017年)	川本浩右	多門文雄	天川浩彦	東 禎
		甲斐則幸	川村隼秋	宮田喜代志
		中川奈穂子	野口 勲	
平成30年4月 (2018年)	川本浩右	多門文雄	天川浩彦	東 禎
		甲斐則幸	川村隼秋	宮田喜代志
		鳩野浩次	野口 勲	
平成31年4月 (2019年)	川本浩右	多門文雄	前田則浩	松本弘樹
		甲斐則幸	川村隼秋	宮田喜代志
		鳩野浩次	野口 勲	

令和2年度(2020年) 運営委員会委員名簿

役 職	所 属 経 歴	氏 名
運 営 委 員 長	元熊本日日新聞社論説委員	川 本 浩 右
運 営 副 委 員 長	熊本市身体障害者福祉協会連合会会長 熊本市身体障害者福祉協会会長	多 門 文 雄
運 営 委 員	熊本市視覚障がい者福祉協会会長	前 田 則 浩
	熊本市ろう者福祉協会会長	松 本 弘 樹
	熊本市手をつなぐ育成会会長	西 恵 美
	熊本市心の障害者家族会むつみ会会長	宮 田 喜 代 志
	熊本市社会福祉協議会事務局長	大 賀 健 司
	熊本市民生委員児童委員協議会会長	小 山 登 代 子

令和3年度（2021年度） 熊本市障がい者福祉センター希望荘 事業計画

1. 基本方針

希望荘は熊本市内にお住いの障がいのある方やご家族、関係者の皆様に様々な事業を通してふれあいの場を提供します。皆様が、この希望荘を通じて、明るく積極的に自信と勇気をもって社会活動にすすんで参加していただけるよう努めてまいります。

- (1) 利用者の声を大切にした福祉サービスを提供します。
- (2) 地域社会とのつながりを大切にします。
- (3) 自らの研鑽に励み、サービスの向上に努めます。

2. 目 的

障がいのある方の活動拠点として、障がいのある方が、かけがえのない個人として尊重され、自己決定を大切にしながら、自らの能力を生かして社会参加し、地域でいきいきと暮らしていただくために、ICT（情報通信技術）の活用を促進し、合理的配慮の充実を図り、サポートすることを目的とします。

3. 内 容

(1) 貸し館事業

- 【目的】 ・障がいのある方々に憩い・つどい・学びの場を提供するとともに、ボランティア等に対しても学びの場を提供します。
- 【内容】 ・大ホール・会議室など8室、憩いの間
・利用は休館日を除き、9時～18時まで
・ホームページ上に貸館空き状況を公開し、利便性を図る

(2) ふれあい事業

「希望荘チャレンジフェスタ 2021（仮称）」を開催します。復興記念希望荘チャレンジフェスタ 2019 の内容を踏まえながら、開館 40 周年記念事業にふさわしい催しを実施します。

- 【目的】 障がいのある方やその関係者、ボランティア、地域住民をはじめとする一般市民がともに楽しみ、相互理解を深め、交流する場とします。
- 【日時】 11 月頃に一週間程度を予定
- 【場所】 希望荘館内および正面玄関外周辺
- 【内容】 ・開館 40 周年記念式典・ステージ発表・主催および自主講座生発表
・作品展表彰式・屋外テント設置によるバザー
・個人および団体作品展・障がい者施設による商品販売・抽選会ほか

(3) 学習講座事業

【目的】 障がいのある方の生きがいつくりや仲間づくり、ふれあいの場とします。

【内容】 主催講座

講座名	講師	定員	実施
絵手紙	前田 恵子	15名	〔月1回〕 通年
絵画	松尾 直樹	12名	〔月2回〕 通年
花と紙のクラフト	金子すみ子	10名	〔月1回〕 通年
七宝焼	鷹端 璃未	10名	〔月2回〕 通年
陶芸①	山内 洋子	5名	〔月1回〕 通年
陶芸②	山内 洋子	5名	〔月1回〕 通年
さをり	北里千佳子	8名	〔月2回〕 通年
パソコン	高沢 龍司	6名	〔月2回〕 上半期
パソコン	高沢 龍司	6名	〔月2回〕 下半期
ヨガ	村田 親吾	10名	〔月1回〕 通年
料理	上妻 逸子	15名	〔月2回〕 通年
音楽	土屋 俊子	15名	〔月1回〕 通年
3B体操	安藤智江子	15名	〔月2回〕 通年

ボランティア育成講座

講座名	講師	定員	実施
手話(初級)	岡本 恭典	15名	〔全24回〕 上半期
布の絵本づくり	西本 信子	15名	〔月1回〕 通年

自主講座

講座名	講師	定員	実施
着物着付	松岡美津子	10名	〔月2回〕 通年
手話さざんか	嶋津 友子	20名	〔毎週〕 通年
手話よつば	栗原 洋美	10名	〔月2回〕 通年
手話ダンス	福馬 朝子	30名	〔月2回〕 通年
編み物	高濱あや子	10名	〔月2回〕 通年
社交ダンス	島村 建治	20名	〔毎週〕 通年

※ 開催講座については、希望荘アンケートや聞き取りを通じ、今後も見直しを行っていく。

※ 令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策に伴う利用制限により講座休講や定員変更を行う場合がある。

(4) ふれあい総合相談

【目的】 障がいのある方とその家族が抱える悩みや問題を相談できる窓口とし、問題の適切かつ迅速な解決に繋がるよう努めます。

【内容】 ・福祉、教育、医療関係等専門分野の相談員を2名以上配置
・視覚障がい者専門の相談員を第4日曜日に配置して対応
・電話やメール、来館による相談
・「NPO法人ともにある会」に業務委託
・毎週日曜日13時～16時に実施

※ 各区役所など他関係機関と連携を図りながら相談に応じます。

(5) 福祉バスの運行

【目的】 障がいのある方の社会参加と福祉の増進を目指します。

【内容】 ・「福祉バスの運行に関する要綱」に基づき実施
・利用は休館日を除く9時～18時まで
・運行は「有限会社 ゆうしん」に業務委託

(6) 自主事業

① 希望荘バスハイクの実施

【目的】 利用者の興味関心のある行き先を設けることで社会参加を促します。

【内容】 ・多様な目的地を選び、様々なニーズに対応
・アンケート回答や参加者の声を反映した行き先や内容を精査して実施

② パソコン短期集中講座

【目的】 ニーズの高いパソコンのスキルアップを通じて、生きがいくりと社会参加を促します。

【内容】 ・エクセルやワードのスキルアップ
・利用者のニーズに即した短期集中で学べる内容の講座を開催

③ 趣味の講座

【目的】 趣味を通じて障がいのある方同士の交流を図る場を提供します。

【内容】 美文字講座・ハンドメイドクラフト講座などの開催

④ クリスマス会・バリアフリー映画鑑賞会などの実施

【目的】 季節の行事を通じ、障がいのある方と地域の人々が交流を図る場を提供します。

【内容】 大ホールを利用した演奏会や映画鑑賞会など

⑤ ふれあいギャラリーへの取り組み

【目的】 日頃の活動の発表の場を設け、障がいのある方の生きがいがづくりと社会参加に繋がります。

【内容】 在宅障がい者の方の作品展示

⑥ 希望荘からの情報発信

【目的】 在宅生活の充実を目指し、希望荘の様々な取り組みをお知らせします。

【内容】 希望荘館内掲示・音声案内・ホームページ・メール配信「希望荘めーる情報局」・市政だより・相談支援事業所へのポスターやチラシ配布など。さらに、LINE 配信やリーフレット改正を行い、広報の充実を図る。

⑦ その他

来館者への希望荘アンケートの実施や、聞き取りを通じ、ニーズに応じた事業を行います。障がい特性に配慮し、理解しやすいコミュニケーションツールを活用しながら合理的配慮を充実させ、利用しやすい施設を目指します。

(7) 地域活動支援センター事業

【目的】 障がいのある方が、地域で生き生きと輝きながら暮らしていくために、自分の力を活かして、生きがいを持って社会参加できるように、日中活動などを通して様々なサポートを行います。

【内容】 日常生活訓練・社会適応訓練・創作的訓練・機能訓練・介護方法等相談および支援・健康チェック・入浴サービス(機械浴・一般浴)・送迎サービス

熊本市で唯一の地域活動支援センターⅡ型であり、その特徴としての機能訓練、社会適応訓練、入浴等の提供により、障がいのある方の自立と生きがいを高めるための事業の強化に取り組めます。

- ① 利用者のニーズに応じたサービスの向上を図ることに努めます。
- ② 利用者の心身の状況、家族の介護負担軽減等に考慮した入浴支援を行います。
- ③ 地域で暮らしていく中で、自立した生活が送れ、社会参加に繋がるように主体的な機能訓練活動の支援を行います。
- ④ 機能訓練及び社会適応活動としてのパソコン設置など脳活性及び知的好奇心活動の充実に努めます。
- ⑤ 創作活動などのレクリエーションの充実を図ります。
- ⑥ 地域活動支援センターを利用しながら、「社会適応訓練」「創作活動」「機能訓練」として希望荘講座を受講できます。

● 資 料

- ⑦ 生活支援等の相談対応にあたり、各区役所や障がい者相談支援事業所との連携強化に努めます。
- ⑧ 体調管理の一翼を担うため健康チェックのサービスを継続して実施します。
- ⑨ サービス提供時間は9時～17時までとします。

上記実施に際して新型コロナウイルス感染症の防止に努めながら支援します。

全事業に対し、運営委員の皆様のご意見や年度末の希望荘アンケートおよびイベント毎のアンケートを実施し、常に利用者のニーズの把握に努め、運営に反映してまいります。

アンケートの実施が困難な利用者に対しては、その状況に応じて適宜ニーズを汲み取り、多くの利用者の声をいかにさせるよう配慮します。

編集後記

「いよいよ新型コロナウイルスの脅威が身近に迫ってきた…」そんな空気に県内が包まれる中、開館 40 周年を迎える希望荘の令和 2 年度はスタートしました。

コロナウイルス感染症に伴うリスクレベルの上昇により、希望荘は貸館や福祉バスの利用制限や中止、講座や自主事業の中止を余儀なくされました。開催を予定していた開館 40 周年記念事業も延期となりました。

そんな状況の中、この希望荘開館 40 周年記念誌「希望荘 40 年のあゆみ」の制作を進めてまいりました。制作にあたり、寄稿のご協力を仰ぎ、お話しをうかがい、資料をひも解いていく中で、希望荘が多くの皆様に支えられ、愛着を持っていただいている場所であることを改めて強く感じる事となりました。

この難局を経て、再び希望荘に笑顔があふれる日が戻ることを信じ、この先も皆様と共にあゆみを進めてまいります。

最後に、この記念誌を発行するにあたり、原稿をお寄せいただいた皆様、記事掲載のご協力をいただいた熊本日日新聞社様、制作にご協力いただいたすべての皆様に心より御礼申し上げます。

希望荘 職員一同



熊本市障がい者福祉センター希望荘開館 40 周年記念誌

希望荘 40 年のあゆみ

発行日 令和 3 年 3 月 31 日

編集・発行 熊本市障がい者福祉センター希望荘
〒862-0971 熊本市中央区大江 5 丁目 1 番 15 号
TEL 096-371-5533
FAX 096-364-5309

印刷 有限会社データコム
〒860-0811 熊本市中央区本荘 2 丁目 5- 8
TEL 096-211-5351
FAX 096-211-5352

